

秋の年次公開検証等の指摘事項に対するフォローアップ

担当府省名	文部科学省		備考
テーマ等	核燃料サイクル関係係推進調整等交付金		
指摘事項	<p>・本事業は、大型再処理施設が放出する放射性物質の影響を調査する事業であるが、平成2年度の事業開始から30年が経過し、総額965億円の予算が投じられていることを踏まえ、文部科学省は、国民への説明責任を果たしていく観点から、これまでの財政支出による事業の取組内容や成果・課題について総括・検証し、取りまとめ結果について、来年度以降の公開プロセスの場を取り上げることなども含め、国民に対して公表すべきである。</p> <p>・上記検証に当たっては、現時点における事業の必要性の観点、周辺住民等の安心・安全の確保に資するといった目的を達成しているかといった有効性の観点、調査研究の成果が他の地域で応用できないか、あるいは費用対効果が最大化されているかといった効率性の観点、調査研究実施団体の透明性の確保が図られているかなど、適切性の観点で検証することが重要であり、検証の質が確保されるよう、外部有識者の知見の活用も検討すべきである。</p> <p>・また、現在設定されているアウトカムは調査研究の実施状況であり、周辺住民等の安心・安全の確保に資するという事業の目的と整合しておらず、事業目的の達成状況等を適切に測定するための指標とは言い難い。上記の検証結果も踏まえつつ、適切な指標を設定すべきである。上記の検証結果も踏まえつつ、適切な指標を設定すべきである。</p>	<p>令和3年度予算政府案閣議決定時までに決定・実施した内容</p> <p>・交付先の地方自治体と調整のうえ、左記の対応方針を決定した。</p>	
個別項目	<p>・本事業は、大型再処理施設が放出する放射性物質の影響を調査する事業であるが、平成2年度の事業開始から30年が経過し、総額965億円の予算が投じられていることを踏まえ、文部科学省は、国民への説明責任を果たしていく観点から、これまでの財政支出による事業の取組内容や成果・課題について総括・検証し、取りまとめ結果について、来年度以降の公開プロセスの場を取り上げることなども含め、国民に対して公表すべきである。</p> <p>・上記検証に当たっては、現時点における事業の必要性の観点、周辺住民等の安心・安全の確保に資するといった目的を達成しているかといった有効性の観点、調査研究の成果が他の地域で応用できないか、あるいは費用対効果が最大化されているかといった効率性の観点、調査研究実施団体の透明性の確保が図られているかなど、適切性の観点で検証することが重要であり、検証の質が確保されるよう、外部有識者の知見の活用も検討すべきである。</p>	<p>対応方針・スケジュール</p> <p>・これまでの取組内容や成果・課題について、事業の必要性や、国民の安心・安全の確保に資するという目的を達成しているかといった有効性、研究成果の応用・費用対効果の最大化といった効率性、研究実施団体の透明性の確保などの適切性の観点も含めた検証及び事業の改善策の検討を、来年度の夏頃にかけ外部有識者の知見を活用して行い、その結果について公表するよう、交付先の地方自治体と調整し、対応を進める。加えて、文部科学省が実施する公開プロセスでの検証の候補とすることも検討する。</p> <p>また、行政事業レビューシートの記載項目について、上記の検証結果も踏まえつつ、交付先の地方自治体と検討した上で、アウトカム及びアウトプットの適切な修正を行う。</p>	<p>備考</p>

の実施状況であり、周辺住民等の安心・安全の確保に資するという事業の目的と整合しておらず、事業目的の達成状況等を適切に測定するた
めの指標とは言い難い。上記の検証結果も踏ま
えつつ、適切な指標を設定すべきである。アウト
プットについても、事業の活動指標として広報
の充実等に関する指標の設定も検討すべきであ
る。